

注目ポイント！

- 木造の歌舞伎劇場「内子座」と木蛸と白壁の町並みを活かした観光振興。
- 道の駅「内子フレッシュパークからり」を介した生産者と消費者との交流。



約1万人(S50)の年間観光客数が約61万人(H17)に！
特産物販売額が「からり」オープンにより10年で10倍の4.5億円(H17)に！



八日市・護国の町並み

コラム

都市と農村との交流拠点「からり」の取締役として、農村女性による農産物直売による都市住民との交流の草分け的存在である。生産者の顔が見える安全・安心・新鮮な農産物を追求し、リース教室ツアーなど年間を通した「食」と「農」の農業体験活動を実践するとともに、農業ベンチャーを対象とした研修等の講師としても積極的に活動し、農村女性起業家のモデルとして多方面で活躍中である。



観光カリスマ
野田 文子氏

これまでの経緯

- 昭和50年(1975) 「八日市護国地区町並保存会」が地区住民により設立される。
- 昭和55年(1980) 「内子町伝統的建造物群保存地区保存条例」が制定される。
- 昭和57年(1982) 重要伝統的建造物群保存地区に選定される。
- 昭和60年(1985) 内子座が復元される。農業活性化の講演会・研修「知的農村塾」が開催される。
- 平成8年(1996) 「内子町環境基本条例」が制定される。
内子フレッシュパークからりがオープンする。
- 平成11年(1999) 町づくり協定をつくり、伝統的景観の維持・整備による街づくりを目標に「八日市地区街づくり協議会」が地区住民により設立される。
- 平成14年(2002) 「内子町環境にやさしいまちづくり基本条例」が制定される。
- 平成17年(2005) 内子町、五十崎町、小田町が合併し現在の町域となる。

主な取り組み

内子座イベント

大正5年2月(1916)大正天皇即位を祝い創建された内子座は、老朽化により取り壊される予定であったが、町並み保存活動とともに保存気運が高まり、昭和60年に大正期そのままの姿で復元。現在では年間7万人が見学し、実行委員会開催の文楽・歌舞伎や、劇団やアーティストによる劇場使用で年間80日、16,000人余が活用。



内子座

保存会主催の観月会

町並み保存活動

当初は「非常識」と考えられていたが、保存会の活動「町並みが財産」への理解で、現在、町並保存会には地区の殆どの世帯が加入し、町並瓦版の発行、修理修景の際の審議会等、自主的な保存会運営を実施。また、町並保存センターを設置し町と保存会が一体となった活動を展開。重要無形民俗文化の木蠟生産用品を保存するとともに、地元中学生を対象に蠟搾り体験による伝統産業の伝承を実施。

特産物の直売（道の駅「内子フレッシュパークからり」）

「からり」では町内の農家が持ち寄った農産物や加工品をはじめ、施設内の工房で製造されたパンやハム、ソーセージを、安心・納得して買ってもらえるよう生産者の氏名を明記して販売。また、売り場のレジと農家を直結した「からりネット」により、売り上げを畑で確認し、売り切れそうな品物をすぐに補填することが可能。開催当初は接客や価格設定にとまどったが、試行錯誤しながら勉強会を重ね、現在は、直売所には420人が出荷者登録しており、品数も年々増加し500種類に上る。平成17年度の販売額は、4億5,000万円で、町の農業総生産額の15%を占める。



特産物直売所

食と農の体験交流活動

内子町の第三セクター「(株)フレッシュパークからり」では、都会の消費者を対象に生産者と協同の農業体験スタディーツアーを開催。また、小中学生へは情操教育の場として農業体験学習を、高校・大学生には職場体験・農村体験を通して農業・農村への認識を深めてもらう活動を実践。



やぐらの餅つき

問い合わせ先

- 内子町総務課町並地域振興班
Tel : 0893 - 44 - 5212 <http://www.town.uchiko.ehime.jp/>
- (株)内子フレッシュパークからり
Tel : 0893 - 43 - 1122 <http://www.karari.jp/>